

小学校中学年の社会科学習における教材研究

地域学習について その1

森 本 正 巳

Study of Teaching Materials in Social Studies of Middle Grades of Elementary Schools

Regional Study (1)

Masami MORIMOTO

はじめに

「小学校中学年の社会科学習は、地域学習とよばれている。中学校社会の地理的分野の地誌学も地域についての学習であるが、一般には地域学習とはよばない。昭和52年版指導要領によると、小学校社会では、目標や内容から、第3・第4学年で使用されている地域(地域社会)とは、児童の生活する市町村や都道府県の広がり指着している。」¹⁾

この地域とか地域学習の用語は、昭和43年版指導要領に初めて登場したが、それ以前には郷土とか郷土学習の用語で使用されていた。その意味するところは、現在の地域とか地域学習の意味する内容とほぼ同じである。たゞ、郷土から地域へと用語が変わった背景には、昭和30年代よりの経済成長に伴う、地域社会の変化・人口移動等により、現在住んでいる地域社会が生まれ故郷でないという現象が多く見られたからである。

いま一つ、昭和52年版指導要領の地域学習に対して、教育課程審議会の昭和51年12月18日付の答申に注目すべきものがある。「最近の地域学習の変ぼうや地域社会相互の關係の複雑化を考慮し、第3学年では市(町・村)、第4学年では県(都・道・府)というように各々の学年の学習の範囲を行政区分により限定することを改め、両学年を通じて、例えば、人々の自然への働きかけ、産業と交通との關係などの具体的な学習のねらいに即して、市や県を関連的に取り上げるようにする」と、答申はいつている。

以上の二つの点は、ともに地域社会の変化により指導要領も改訂されてきたのであるが、教育現場では、どのような教材を開発し指導に当たっているか、河川教材を通して実態を見ることにする。

地域の河川(名古屋の川)

水の問題は人間の生活にとって極めて密接であり古くからいろいろと治水に用水に人間の努力が傾注されてきたが、名古屋の河川を見る前に、日本の河川に共通する特色を取り上げ、それを視点にして地域の河川を考えたい。

1 日本の川

「川の問題といえば汚染と水資源がまずいわれる。共に重要であるが、大きく騒がれるよう

になったのは、この10年～20年のことである。以前は国土の問題も治水であり、川の問題も治水であった。それを明確に示すものとして、河川法がもっぱら治水の法律であったが、国土の70%を占める森林に対する森林法もまた治水の法律であったといえる。」²⁾

また、「日本の川は急流で短く、降った雨は洪水流となって一気に海へ流れる。あとは渴いてしまう暴れ川である。その暴れ川の氾濫原にあたる土地を求めてきたのが日本人であった。氾濫原であればこそ、そこには豊かな水資源が約束されたが、常に水害の脅威は付きまとっていた。」³⁾

いま一つ、「川を洪水の捨て場に変えてからは、都市の中小河川は下水道とひきかえに、その存在理由を喪失してつぶされてしまった。」⁴⁾

2 名古屋の川

名古屋を代表してきたのは堀川であった。川の無い名古屋に築城し城下町を形成するには何としても水が必要であった。そこで堀川が開削され、海とも通じ、木曾川とも通じ名古屋の動脈として城下町を支えてきた。明治43年(1910)新堀川と結び、昭和5年(1930)中川運河とも結び、商工業の大幹線となったが、陸上交通の発達で現在はその面影がない。

堀川の西には、庄内川・日光川が流れ、堀川の東には、山崎川・天白川等が流れ、一級河川が1水系、二級河川が4水系、準用河川が5水系、その他の川(小河川・運河)がある。

これらの川が、江戸・明治・大正・昭和と、その時々貴重な水資源として水路として、産業や文化に貢献してきたのである。

しかし、昭和30年以降は、都市化現象が急激に進み、宅地造成に伴う樹木の伐採による水源の喪失、水田の埋立てによる遊水池の消失は、雨水の流量の増大となり水害の脅威は一層強まり、加えて南西部の地盤沈下は排水機能の低下へと連関し、度々の水害を招く結果となった。一方、平常時は流水量が枯渇し、その為に水質の汚濁が増大した。その様子を、堀川の水で見ると、「昭和25年20ppm・昭和35年39ppm・昭和41年54.8ppmとBOD(生物化学的酸素要求量)が環境悪化の状況を示している。」⁵⁾

このような悪化した河川環境に対して、識者の声・市民の要望・マスコミの取材等により、河川浄化が問題となり、やがて河川環境整備事業として行政が動きだし、水と緑をもつ空間が少しずつ見られるようになってきた。

3 地域学習に取り上げられている名古屋市以外の川

(1) 木曾川

濃尾平野の母なる川として、愛知県西部の各地、名古屋市に大変深い関係をもち、地域教材としていろいろの角度から取り上げている。木曾川のもつ性格は多岐にわたっているので、簡単に次のように表現しておく。豊かな水資源をもつ川、大変な暴れ川である、水力発電の川である、過去には筏の川であった。

(2) 矢作川

西三河を貫流し三河湾に注ぐ川で、西三河の農業を支えてきた重要な川である。教材としては、明治用水の水源として登場している。江戸時代から明治時代にかけて、水路としてよく利用され、舟が上下していた。また、塩の道の役割も果たしていた。

河川教材を取り上げた地域教材

1 名古屋市立小学校の社会科教育課程表(第3・4学年の河川教材の抜粋)

・ () 内は配当時間数

学年	大 単 元 名	小単元名	本時	指 導 内 容	指 導 の 重 点	取り上げた河川名	備 考
3	2.名古屋の土地のようす (12)	1.名古屋の地図 (4)	$\frac{3}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$	<ul style="list-style-type: none"> 川は高い所から低い所へ流れる。 川の働きで北部・西部・南部の低地がつくられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 土地には高低がある。 平拓地と低地の区分。 	庄内川 山崎川 天白川	<ul style="list-style-type: none"> 川の水の働き(運搬作用)に軽くふれる。
		2.土地のちがいによつかわれ方 (8)	$\frac{3}{8}$	<ul style="list-style-type: none"> 港と町の中央を結ぶ大切な内陸水路であった。 両岸は木材会社・倉庫・工場が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> トラックができ運河の機能が低下した。 	堀川 新堀川 中川運河	<ul style="list-style-type: none"> 舟による交通 川の汚染
	4.名古屋の人びとのくらしと田や畑のしごと (6)	2.市内の田や畑のしごと (4)	$\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$	<ul style="list-style-type: none"> 西部は低く、川の水面より低いところがある。 排水のためにポンプ場がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家を造るとき石垣で土地を高くする工夫がしてある。 伊勢湾台風の被害。 	庄内川 日光川	<ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下にもふれる。 水害
		2.市内の田や畑のしごと (4)	$\frac{4}{4}$ $\frac{4}{4}$	<ul style="list-style-type: none"> 低地の米作りの苦心と工夫により生産を高めている。(南陽町) 	<ul style="list-style-type: none"> パイプを利用し木曽川より導水している。 	木曽川	<ul style="list-style-type: none"> 農業用水
		2.名古屋市民のけんこうでゆたかなくらし (20)	$\frac{3}{8}$	<ul style="list-style-type: none"> どんなな経路で各家庭まで水がきているかたしかめ。 	<ul style="list-style-type: none"> 取水口(犬山市・江南市) 浄水場(春日井市・大治町) 	木曽川	<ul style="list-style-type: none"> 飲料水 生活用水
		3.名古屋市民の安全なくらし (17)	2.大水を防ぐ (4)	$\frac{4}{4}$	<ul style="list-style-type: none"> 庄内川の工事計画図から堤防の強化・遊水池の役目などを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 国・県・隣接市町村と協力し水防計画を立てる。 	庄内川
4	6.きょう土を聞いた人びと (25)	1.明治用水 (10)	$\frac{1}{10}$	<ul style="list-style-type: none"> 安城が原へ水を引く工事にとりかかるとの苦心。 	<ul style="list-style-type: none"> 水への執念に気付かせる。 人々の協力 	矢作川	<ul style="list-style-type: none"> 農業用水
		2.愛知用水 (3)	$\frac{1}{3}$	<ul style="list-style-type: none"> 知多半島の地形と水不足をどう解決したか、たしかめ。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施までの人々の努力 国際協力による完成 	木曽川	<ul style="list-style-type: none"> 飲料水 農業用水 工業用水
	7.いろいろな土地のくらし (24)	3.三川分流 (7)	$\frac{1}{7}$ $\frac{2}{7}$	<ul style="list-style-type: none"> 三川分流前の水害のようすと、完成後のようすとの比較。 低地でもなせ人々は住むのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幕府と薩摩藩との関係を十分理解させる。 先人の努力へ感謝する。 	木曽川 長良川 揖斐川	<ul style="list-style-type: none"> 水害
		2.低地のくらし (5)	$\frac{1}{5}$ $\frac{2}{5}$	<ul style="list-style-type: none"> 立田村の農地および作物のようす。 農家の家のつくり方や水屋のようす。 小舟の利用のようす。 	<ul style="list-style-type: none"> 輪中生活の苦心。 水害の脅威。 	木曽川 佐屋川用水	<ul style="list-style-type: none"> 水害 地盤沈下

2 名古屋市立G小学校の社会見学コース(昭和58, 12, 7実施・バス利用)

3年生 学習のめあて 市内の土地のようすや土地の使われ方を見る

学校——役所の町——名古屋城——住吉橋——貯木場——明德橋——
(車中) (車中) (堀川に沿って南下 車中より)

南陽町—— 庄内新川橋——大高町・大高緑地 ——学校
(降りて土地のようすを見る) (車中) (土地の使われ方を見る)

4年生 学習のめあて 愛知県西部をたずねて土地の特色をつかむ

学校——立田村—— 千本松原・治水神社—— 南陽工場——学校
(村のようすをよく見る) (三川分流について先生の話聞き) (ゴミ焼却所)

教室で学習した重要な教材について、まとめとして社会見学を行い児童の理解を確なものにしていくのであるが、3年・4年の地域学習で取り上げた河川教材の指導面での配慮ぶりが察せられる。また、個々の小単元の教材も地域性を考えて開発されていることがうかがえるが、自分たちの地域の川をどのように美しくしていくかという視点からの教材がない。

すっかり汚れている川、流水量が乏しい川、こんな川を蘇らせる方法を中学年なりに考える1時間完了の小単元が、是非必要である。

河川教材の開発の契機となる参考例

1 地域素材を生かし全学年に河川教材を開発した例

「仙台市中央を流れる広瀬川と市民の深いかかわり合いを生かして、1年～6年までの教材を開発したのは、仙台市立南材木小学校で、主題は「広瀬川と町」で、各学年に次のように配列してある。」⁶⁾

- 1年——河川公園・広瀬川の安全施設・水や電気のはたらき
- 2年——六郷・七郷の米作り・中田の野菜作り・愛宕堰の役割
- 3年——灌漑用水と農業・川沿の土地利用・他地域との結びつき
- 4年——健康安全な生活と広瀬川・洪水と広瀬川・広瀬川沿岸の開発
- 5年——広瀬川の氾濫原・近郊農業と広瀬川・広瀬川沿岸の工業・染物と広瀬川
- 6年——広瀬川の歴史・交通と広瀬川の移り変わり・川の利用と生活圏の拡大発展

2 地域であった社会事象の例

「山崎川で育て 仙台の魚」交通遺児交流のプレゼント

この事象は、仙台市中央を流れる広瀬川の魚3,000匹が名古屋に贈られた。仙台市へ3泊4日の第2回の洋上セミナーを終えて名古屋へ帰ってきた交通遺児らの代表30名と、仙台から来た交通遺児6名が出席して、瑞穂区山下通5丁目の山崎川で放流式が行われた。今回のプレゼントは仙台を訪れた遺児が、汚染のない広瀬川を見て、「名古屋の川にもアユの住む清流が戻ってほしい」と作文に書いたのがきっかけである。放流したのは、シラハエ・モロコ・フナ・ギバナの1,000匹で、残り2,000匹は、29日に堀川と庄内川に放流される⁷⁾。

3 環境目標値の補助目標と市内の川の浄化目標

名古屋市の川は、公害防止条例により環境水準が決められているが、3年生4年生の小学生には、川の魚を使った補助目標で考えさせた方がよく理解できる。

水準A——モロコ類・タナゴ類・川エビ

水準B——コイ・メダカ・ドジョウ・シラハエ

水準C——フナ・ナマズ

市内の川の浄化目標(主な川のみ)

Aクラス——山崎川の上流中流(下流はB)・天白川の上流中流(下流はB)

Bクラス——日光川・庄内川

Cクラス——中川運河・堀川・新堀川⁹⁾

以上の参考例と、3年生の発達段階を考慮し、山崎川の教材開発を考えることにした。

山崎川の教材研究

「石川は府志によれば、『井戸田村の東にあって、末森村・伊勝村に出づ。河名村に至って河名川といい、石仏村・新屋敷村・井戸田村を経て山崎村に至り南流して海に入る』とある。これ今の山崎川のことである。今の千種区猫ヶ洞の池水を水源として流れ(中略)千竈通りを経て名古屋港に入る。』⁹⁾

上記のように山崎川は、名古屋市を中心部の市街地を北から南へ流れる延長13.6kmの河川で、上流域は丘陵であるが、下流域はポンプ排水の必要な低地となっている。下水道工事もかなり前から行われ、治水工事も行われてきたが、都市化の波のため現在でも下流では浸水の被害が発生するので、改修工事や水源の猫ヶ洞の流量規制の工事も実施されている。

1 導 入

(1) 新かなえ橋

○クイズ1 山崎川には、川口(名古屋港)から千種区の田代本通までの間にいくつ橋があるでしょう。ただし4つの鉄道の橋と水道管の橋は除きます。

答 A約92・B約63・C約46・
D約25

正解は Cです。

○クイズ2 46の橋(短い川ですがずいぶんあるね)のうち、一番渡ってみたいくなるような、かっこいい橋は、次のどれに入りますか。

答 A鉄の橋・Bコンクリートの橋・C木の橋(残念。つり橋・石橋はありません)

正解は Cです。図1を提示し、新かなえ橋という名称と、地図で場所を示す。

(2) 大曲輪貝塚

図2を提示し、読み方の説明をする。次に、この貝塚から出土した人骨について説明する。

昭和55年の瑞穂陸上競技場の改修工事の際、人骨全身骨格1体分、頭・足その他の部分骨3体分等が発見され、現在正面スタンドの北入口の場所に、人骨模型が出土した時の姿でガラス越し見えるように展示されている。この事象から、3年生なりの問題把握をさせる。まずこの付近には大昔から人が住んでいた。そして山崎川の水を飲料水としていたであ

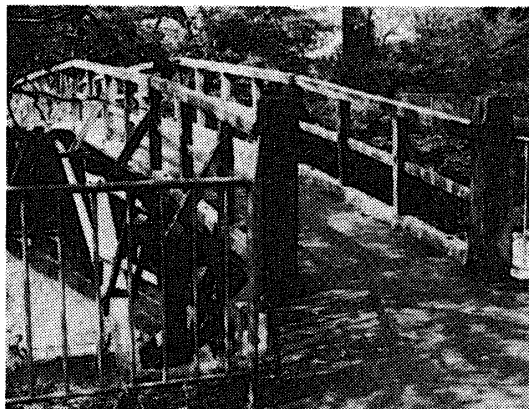


図1 新かなえ橋



図2 大曲輪貝塚

ろう。

また、魚もとったであろう。そんな話し合いを生かし、人間の生活と水との関係について考えさせる。

2 展 開

(1) 昭和 35 年頃の山崎川の汚れ方について、近くに住んでいた人の話をテープにとり聞く。内容は、a、川底にはゴミや動物の死体があった。b、石もごろごろとしていた。c、堤防は草がしげり、ところどころくずれていた。d、川へゴミを捨てる人がいた。以上の程度とする。

(2) 魚の姿は見えぬ死んだような山崎川を美しくするため、どんなことをしたか、班毎で相談し意見をまとめさせる。(以下の項目は予想される意見)

○川へゴミを捨てないようにする。—— 清掃車の回数を増す。

○川底にあるゴミやヘドロをとる。—— 川底の改修工事

○汚れた水を山崎川へ流さない。—— 下水道工事

○堤防を強くする。木を植える。—— 改修工事および緑化工事

○流れる水を多くする。—— 水源の工事

○魚を流してやる。—— 魚の住めるような淵やコンクリートブロックを置く

各班からの意見のように、近くに住む人の注意と、市の努力で山崎川は美しくなり、瑞穂区一万歩コースとなり、歩く人も多くなっています。

(3) 猫ヶ洞の環境整備事業について(水害と水量の調節)

川を美しくするみんなの願いがみのり山崎川もみちがえる程になってきましたが、もっと山崎川をよくするためにと考えて、水源池の猫ヶ洞池には、こんな装置ができています¹⁰⁾。

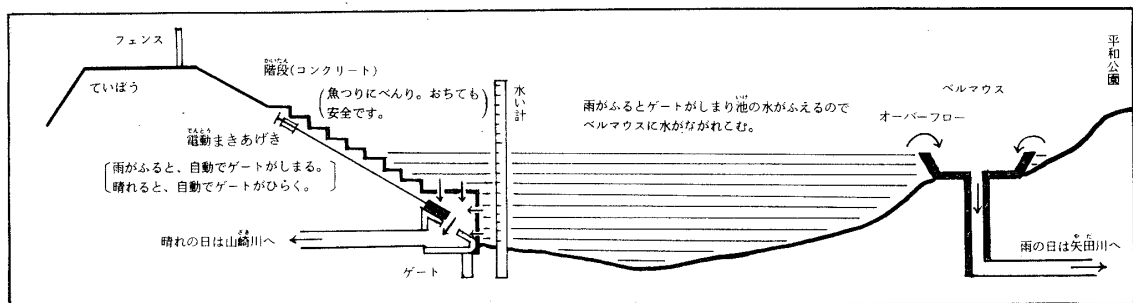


図3 猫ヶ洞池の断面図

○雨降りの日は大水にならないように、余裕のある矢田川の方に流し助けてもらう。

○晴れの日には川の水が流れるように、少しずつ流してもらう。

この装置のおかげもあって、名古屋の川のうちに水が一番きれいな川になってきました。

3 終 末

写真の字を読んでください。

実は8月28日に1,000匹も仙台の広瀬川の魚を放流しました。魚が住めるように、左右田橋と落合橋の間に、コンクリートのブロックも入って

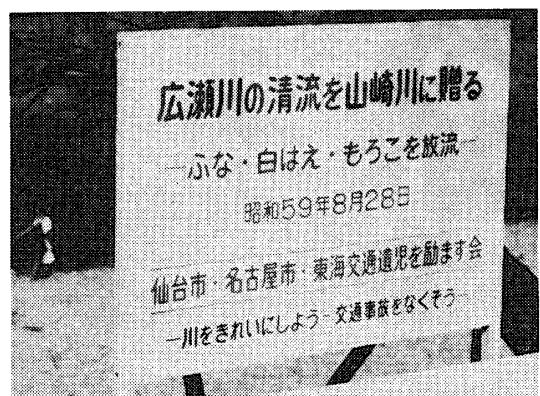


図4 記念の立札

います。こんど山崎川へ行ったら、仙台からの魚がいるかよく見てください。

みんなが努力すると、よごれて死んでいたような川でも、生きかえって魚が住めるようになることがわかりましたね、とまとめ、各自に感想を書かせる。

おわりに

名古屋市の地域学習中、河川教材に焦点をおきその内容を見てきたが、水資源の利用や治水関係の教材についてはよく開発されている。ただ環境面を取り上げて水と緑の空間を、次代へ渡していく河川教材の無いのが気になった。

身近な山崎川を取り上げて、教材開発を試みたのは、その思いからである。

この夏(昭和59年)二度ほど山崎川の川口から田代本通あたりまで歩いたが、水源池の猫ヶ洞池では数十人もの釣人がいたし、水が汚れた南区の山崎橋付近でも数名の釣人が見られた。確かに川は少しずつではあるが浄化しているように思われたが、この思いが誤りでないことを切に祈っている。

参考文献

- 1) 永井滋郎他：社会科重要用語 300 の基礎知識, 191, 明治図書(1981)
- 2) 富山和子：水の文化史, 102, 文芸春秋(1982)
- 3) 前掲書：103
- 4) 前掲書：124
- 5) 名古屋市土木局河川浄化対策室：堀川, 12, 名古屋市(1984)
- 6) 溝上 泰：社会科教育(社会科教育研究年鑑84年版), 258, 79~80(1984)
- 7) 中日新聞：84年8月29日号朝刊, 中日新聞社, (1984)
- 8) 名古屋市土木局河川計画課：名古屋の河川, 40, 名古屋市(1980)
- 9) 小出保治他：瑞穂区(その生い立ちから), 11~12, 瑞穂区役所(1964)
- 10) 名古屋市土木局河川計画課：名古屋の河川, 44, 名古屋市(1980)